

国産材化で情報収集

国産材製材協会

全手連等と意見交換へ

国産材製材協会（豆原義重会長）は4月28日、東京都内で09年度の通常総会を開催し、10年度は大型チェーン

との意見交換を計画している。



豆原 会長

豆原会長はあいさつ

で、「建基法改正、リマン・ショックと大変な一時期を過ぎた。現在も、その基調は変わっていない。しかし木材に対する追い風は吹いている。当協会も発足後5年が経過。新政権では木材自給率50%が目標。今や新しい時代に突入した。大いに期待したい。今後も頑張っていきたいし、果たすべき役割は大きい」と話した。

10年度の活動目標として、品質規格委員会ではカラ松、エゾトド松構造用製材及び使い回しを考慮した板割材について寸法・品質基準・規格原案を作成。木住協・ハウスメーカーの資材担当者・設計士との意見交換会の開催。高耐久製材の規格案を策定。

マーケティング委員会では、ロシア材代替の国産材羽柄材マーケットの調査。大型チェーン店舗の木造化・国産材化、大手ハウスメーカーの国産材化に関する情報収集。

技術開発委員会では、国内の欧米型製材工場のコストシミュレーション研究。全国木工機械工業会・日本木材乾燥施設協会との意見交換会。木材学会等から最新の技術研究情報を収集。

原木調達委員会では日本と欧米の素材生産・流通コストに関するデータ収集。林経協メ

ンバーとセミナーを開催。民有林の小規模所有・生産の集約化、計画生産が可能となるシステムづくりの調査研究。

特別（チップ問題）

委員会では、全国木材チップ工業連合会が実施する調査に協力しデ

ータの共有化を図り、意見交換会を開催。行政の協力で日本製紙連合会と日本繊維板工業会との意見交換会を開催する予定。